工 事 説 明 書

工事をされる方へ

正しく、安全にご使用いただくための工事・設置方法について記載しております。
この工事説明書をよくお読みいただき、指定された工事を行ってください。

■付属品について

工事をされる前に、次の付属品をお確かめください。

● 浅井戸用

ストレーナー

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠警告

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

禁　止

・傷つける　・加工する
・熱器具に近づける
・引っ張る　・無理に曲げる
・ねじる　・重い物を載せる
・束ねる　など

傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。

電源プラグは、根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

●傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、指定電圧以外での使用はしない

禁　止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししたり、漏電しゃ断器を操作しない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

アース線は必ず取り付ける〔D種接地工事（旧第3種接地工事）〕

アース線接続

故障や漏電のときに感電の原因になります。アース線の取り付けは、法律で義務づけられています。

●アース線をポンプのアース端子に接続し、アース棒を地中に埋めてください。
●アース工事は電気設備技術基準に基づき、電気工事士の方が行ってください。

アース工事は、必ず電源プラグを抜くか、漏電しゃ断器を切って行う

電源プラグを抜く

感電の原因になります。

アース線はガス管、水道管、電話線および避雷針に絶対に接続しない

禁　止

爆発・感電の原因になります。

配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従い、安全・確実に行う

誤った配線工事は、感電や火災の原因になります。

●配線工事は、電気工事士の方が行ってください。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠警告

漏電しゃ断器を必ず取り付ける

故障や漏電のときに感電の原因になります。漏電しゃ断器の取り付けは、法律で義務づけられています。

●万一漏電が起こった場合、感電を防止します。

除菌器用端子台に、ナショナル除菌器（PJ-22E・PJ-22E2）以外の除菌器を接続しない

正常な除菌ができず、飲むと体調を損なう原因になります。

絶対に改造しない

発火したり、異常動作してけがの原因になります。

ポンプカバー内部に物を入れない

過熱による発火で、火災の原因になります。

飲用に使用する場合は、設置時に水質検査を保健所へ依頼する

有害な物質が含まれている場合、飲むと体調を損なう原因になります。

●水質検査については、9ページをご参照ください。

凍結防止のために、ポンプカバーやポンプカバー内のモーター部に毛布などをかぶせない

過熱による発火で、火災の原因になります。

●凍結防止については32ページをご参照ください。

三相・200 V用の場合のみ

電源電線のシース（外皮材）を取り除くときに、芯線の絶縁体（被覆）を傷つけない

発煙・発火の原因になります。

絶縁被覆付丸形端子を圧着していない電源電線を、電源端子台に直接結線しない

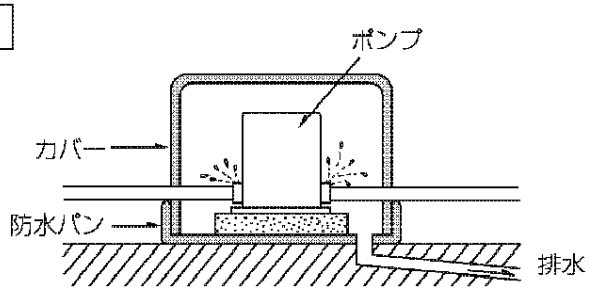
発煙・発火の原因になります。

●電源電線に絶縁被覆付丸形端子を圧着して、電源端子台へ結線してください。

⚠注意

ポンプは屋外に設置する
設置条件により屋内設置となる場合は、必ず水漏れ対策を行う

水 漏 れ 対 策 例

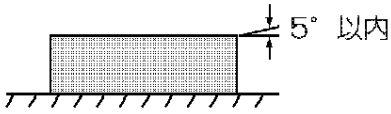


修理・点検時や万一の故障のときに水が漏れますと、周囲や階下などが水びたしになり、大きな補償問題になることがあります。

●カバーは風通しのできる構造にしてください。

●防水パン・カバーなどで、噴き出した水が必ず排水できるようにしてください。

基礎をコンクリートやブロックなどで水平につくる



倒れて事故の原因になることがあります。

設置上のお願い

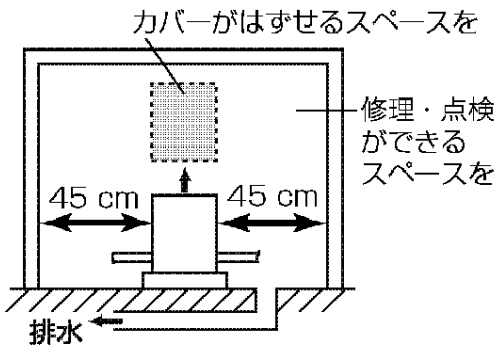
清水以外の液体（塩水・油・化学薬品など）には絶対に使用しないでください。また、使用可能最高水温（40℃）以下でご使用ください。

●部品がいたみ、水漏れや故障の原因になることがあります。

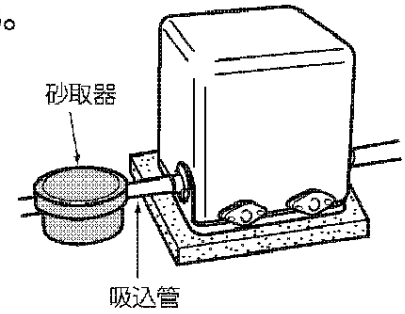
必ず、本機および配管の凍結防止を行ってください。（32ページ参照）

●冬期は、暖かい地方でも思いがけない寒波のためポンプや配管が凍結し、破損することがあります。

修理・点検ができるスペースを確保してください。また、修理・点検時に水が出ることがありますので、排水ができるようにしてください。



砂を吸い上げやすい井戸には必ず、砂取器（市販品）を取り付けてください。



●ポンプに砂が入ると故障の原因になります。
※砂取器を取り付けた場合、ポンプ性能が低下することがあります。
※砂取器は、定期的なメンテナンスが必要です。

ポンプの吐出側配管にはバルブを取り付けてください。

●修理・点検のときに必要です。

周囲温度が40℃以上のところには設置しないでください。

ポンプはできるだけ井戸の近くに設置してください。

井戸から離して設置される場合

● 浅井戸用

井戸からポンプまでの距離は、吸上げ高さにより下表の横引きできる長さ以内で配管してください。（ただし、吸込管のエルボ使用数は1個）

吸上げ高さ（m）	8	7	6	5
横引きできる長さ（m）	2	3	4	5

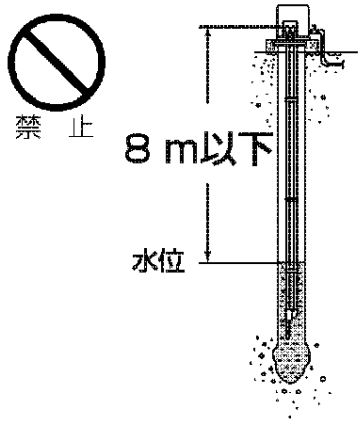
※横引きが長すぎたり、吸込管のエルボ使用数が多いと、水を吸い上げなかったり、十分なポンプ性能が確保できない場合があります。

● 深井戸用

配管は水平もしくはポンプに向かって登り勾配にしてください。また、井戸からポンプまでの横引きの距離は、できるだけ短くしてください。
（できるだけ3ｍ以内で配管してください。）

深井戸用を絶対に浅井戸に使用しないでください。

●深井戸用配管での浅井戸（8 m以下）使用は、ポンプ故障の原因になります。



配管工事の前に

新しく井戸を掘られた場合は、井戸の砂を十分に取り除いてから配管してください

●羽根車に砂をかみ込むと、故障の原因になることがあります。

水道管に直接配管しないでください。

●水道法で禁止されています。また、ポンプに水道圧力がかかり、故障の原因になります。

配管は、仕様（12、13ページ）を参照し、規定の管径のものをご使用ください。

配管は、フランジへ確実に接続してください。

●接続が不完全な場合、水漏れや空気の吸い込みが発生し、ポンプが止まらない、または運転・停止を繰り返すなど、異常の原因になります。

フランジへの配管接続について

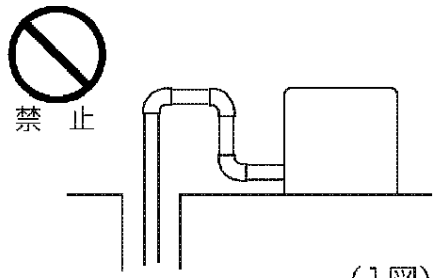
配管に、シールテープを5回以上、確実に巻きつけてください。
また、上水道用配管シール剤（ヘルメチックシール剤など）との併用をおすすめします。
その場合、滑りがよくなりますので、ねじ込みすぎて、バルブソケットがフランジ面から飛び出さないようにしてください。
※ポンプの位置を調整するとき、接続した配管を緩めないでください。

配管工事

■ 浅井戸用

● 横引き配管は、とり居配管にしないでポンプ側が高くなるように傾斜をつけてください。

※とり居配管とは、吸込管が途中で吸込口より高くなっている配管です。(1図)
配管内に空気がたまりやすく、水が出ないなどの原因になります。



(1図)

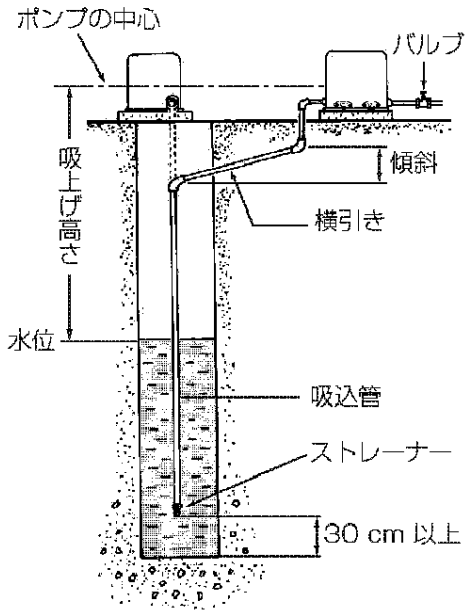
● ポンプの吐出口は3方向より選べます。

(吐出口を変更する場合は、吐出側フランジ・パッキン・ボルトと吐出側閉塞フランジ・Oリング・ボルトを、セットで取り換えて配管してください。)

● ポンプの吸込口は2方向より選べます。

(吸込口を変更する場合は、吸込側閉塞フランジをはずし、吸込側フランジと逆止弁を取り付けて配管してください。)

● ストレーナーは必ず取り付けてください。



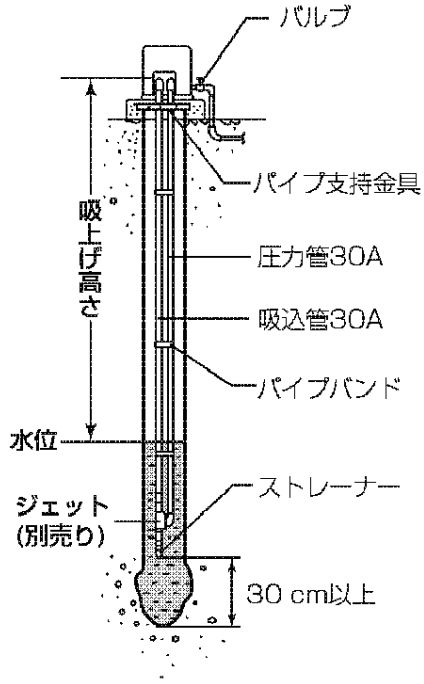
■ 深井戸用

● 吸込管・圧力管は重量がポンプに直接かからないように、パイプ支持金具で井戸ケーシングに支持してください。

● パイプ支持金具を締めつける際は、左右均一に締めつけてください。
（片締めすると、パイプの固定が困難になります。）

● 横引き配管は、とり居配管にしないでポンプ側が高くなるように傾斜をつけてください。
（とり居配管にすると呼び水が完全にできないため、試運転時に配管内の空気がポンプ部に流入し、エアーロック状態となり揚水しません。）

● ポンプの吐出口は2方向より選べます。
（吐出口を変更する場合は、吐出側フランジ・パッキン・ボルトと吐出側閉塞フランジ・Oリング・ボルトを、セットで取り換えて配管してください。）



● ストレーナーは必ず取り付けてください。

ジェット（別売品）の選択

ジェットは3種類（300 W用は2種類）ありますので、吸上げ高さと合うものを、必ずご使用ください。

- 吸上げ高さに合っていないジェットを使うと、水を吸い上げなかったり、ポンプ故障の原因になります。
- 下記品番以外のジェットを使用されると、十分なポンプ性能が確保できない場合があります。

吸上げ高さ（m）	ジェット品番		
	300 W用	400 W用	750 W用
8～18	P－4B－12CJ	P－4B－12CJA	P－4B－12CJA
16～24	P－4B－24CJ	P－4B－24CJA	P－4B－24CJA
22～30	―――	P－4B－35CJA	
28～35	―――	―――	P－4B－35CJA

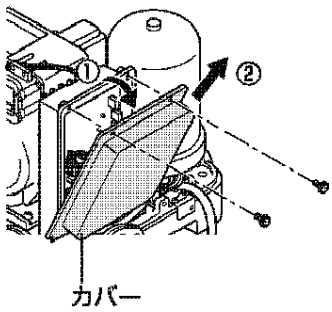
配管工事

■ 運転モードについて

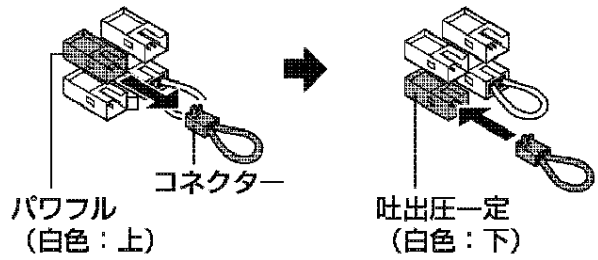
運転モードは、工場出荷時「パワフル」モードに設定されています。
じゃ口の位置が低く、押上げ高さがあまり必要ない場合には、下記の手順で運転モードを「吐出圧一定」モードに切り換えることができます。

●運転モードの切り換え方法〔イラストは、浅井戸用を代表として使用しています。〕
電源プラグをコンセントから抜くか、漏電しゃ断器を切ってから、下記の操作をしてください。
（電源を切って15秒以上経過してから操作しないと、モード設定は切り換わりません。）

1. ポンプカバーをはずし、制御ボックスのカバーをはずす
①カバー上部のねじをはずす
②カバーを引き上げて、はずす



2. 運転モード切換用コネクターの「パワフル」からコネクターをはずし、「吐出圧一定」に取り付ける
（24、25、26、27、28ページ参照）



作業後は、制御ボックスのカバーとポンプカバーを元どおりに取り付けてください。

配線工事・工事の前に「安全上のご注意」15、16ページを、よくお読みください。

⚠注意

■制御ボックスの修理・点検のときは、必ず電源プラグを抜くか、漏電しゃ断器を切る

制御ボックス内部は通電していますので、感電の原因になることがあります。

■制御ボックスに水をかけない

水ぬれ禁止

内部の電子回路部がぬれると、誤動作や感電の原因になることがあります。

●電子回路部に水がかかった場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜くか、漏電しゃ断器を切り、水気をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

■制御ボックスの電源端子台および除菌器用端子台には、触れない

端子台は通電していますので、感電の原因になることがあります。

■除菌器用端子台に、除菌器以外の機器を接続しない

禁　止

故障の原因になります。

■ 電源電圧をご確認ください。

● 電源電圧は定格電圧の±10%の範囲内でご使用ください。範囲外の場合は電力会社にご相談ください。（範囲外で使用されますとモーター焼損の原因になります。）

■ 結線方法

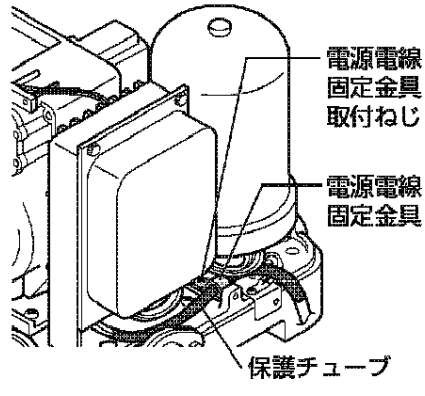
● **単相用……専用のコンセントを設けてください。**
※屋外の場合は、防水形コンセントをご使用ください。

● **三相用……電源電線を別途ご用意のうえ、下記の順序で結線してください。**
※電源電線は線径（公称断面積）0.75 mm²以上の耐熱キャブタイヤケーブルをご使用ください。

① 電源電線固定金具取付ねじをゆるめ、保護チューブ（黒色）の中に電源電線を通す

② 制御ボックスのカバーをはずし、電源端子台に結線する（25、28ページ参照）
※電源電線のシース（外皮材）を、端から約30 mm取り除き、電源端子台に取り付けられている絶縁被覆付丸形端子へ圧着してください。

③ 制御ボックスのカバーを取り付け、電源電線固定金具取付ねじを締めつける



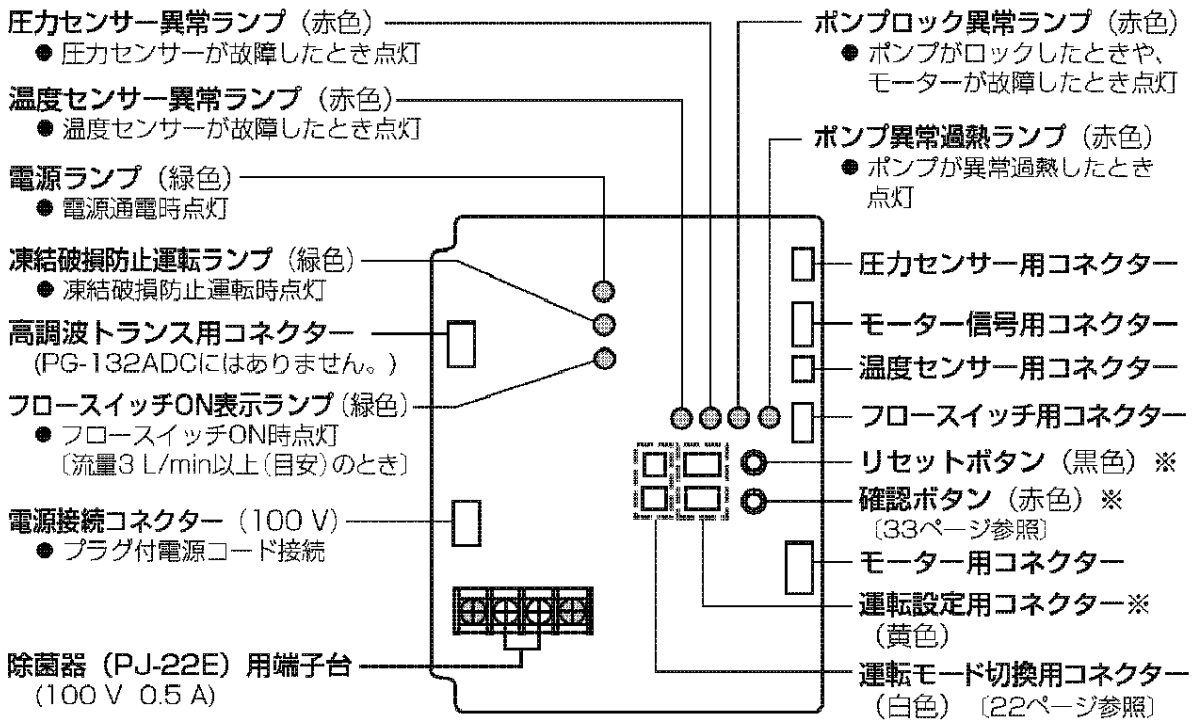
お願い

制御ボックスカバーは必ず取り付け、ねじで固定してください。

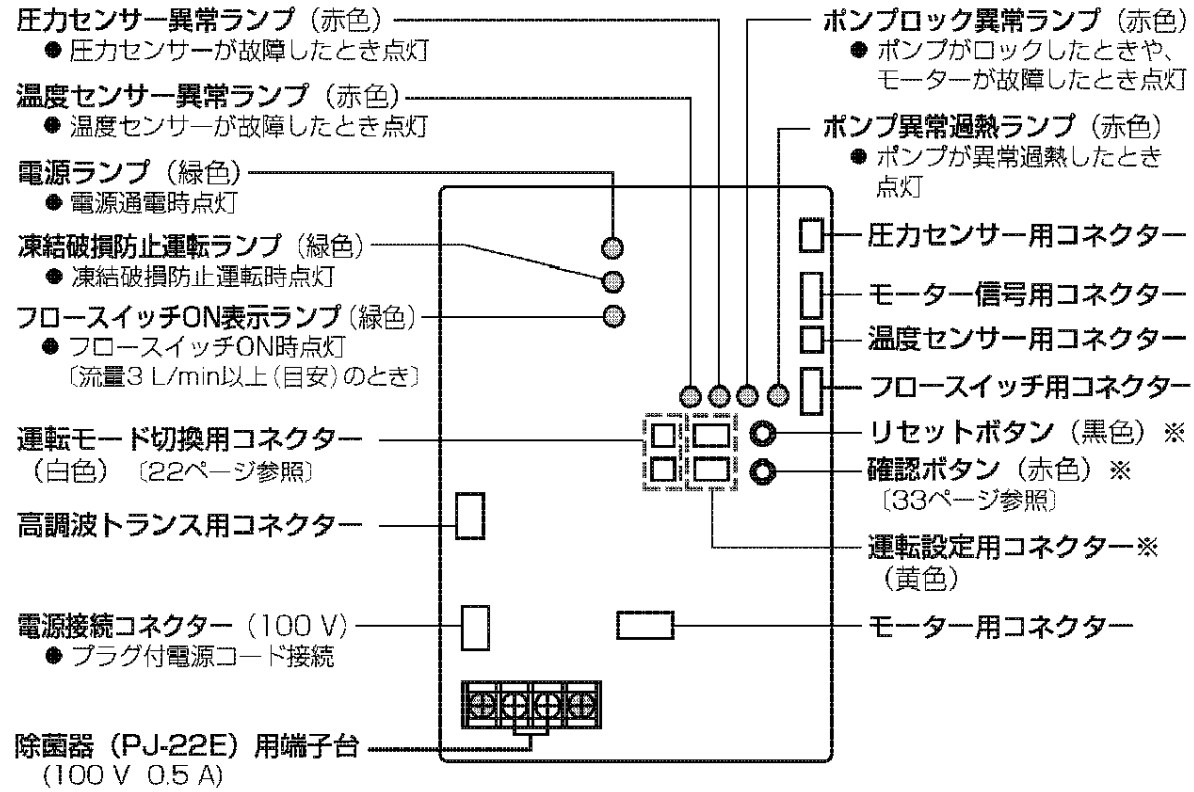
配線工事

■ 制御ボックス内部の表示ランプについて

〔PG-132ADC・PG-202ADC〕



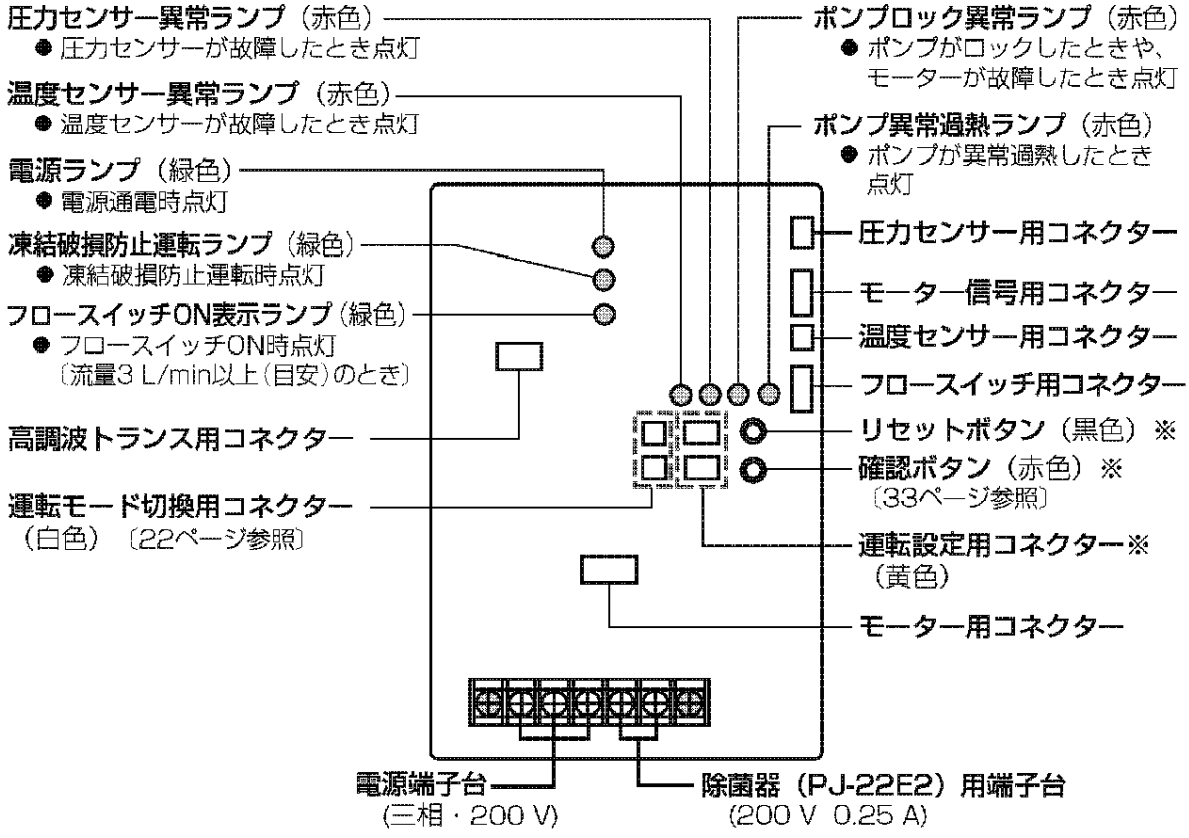
〔PG-402ADC〕



お願い

- ※印のコネクターとボタンは、緊急時やメンテナンス時以外は触らないでください。
- 除菌器を使用する場合、電源は必ず除菌器用端子台に接続してください。
- 除菌器の電源は、除菌器の電源コード先端に絶縁被覆付丸形端子を圧着し、接続してください。
- 異常ランプが点灯した場合、原因を取り除いてから通電状態でリセットボタンを2秒以上押してリセットするか、電源プラグを抜き、15秒以上後に差し込んでください。
  (抜き差し間隔が短いとリセットされません。)

〔PG-402ADCM・PG-752ADC〕

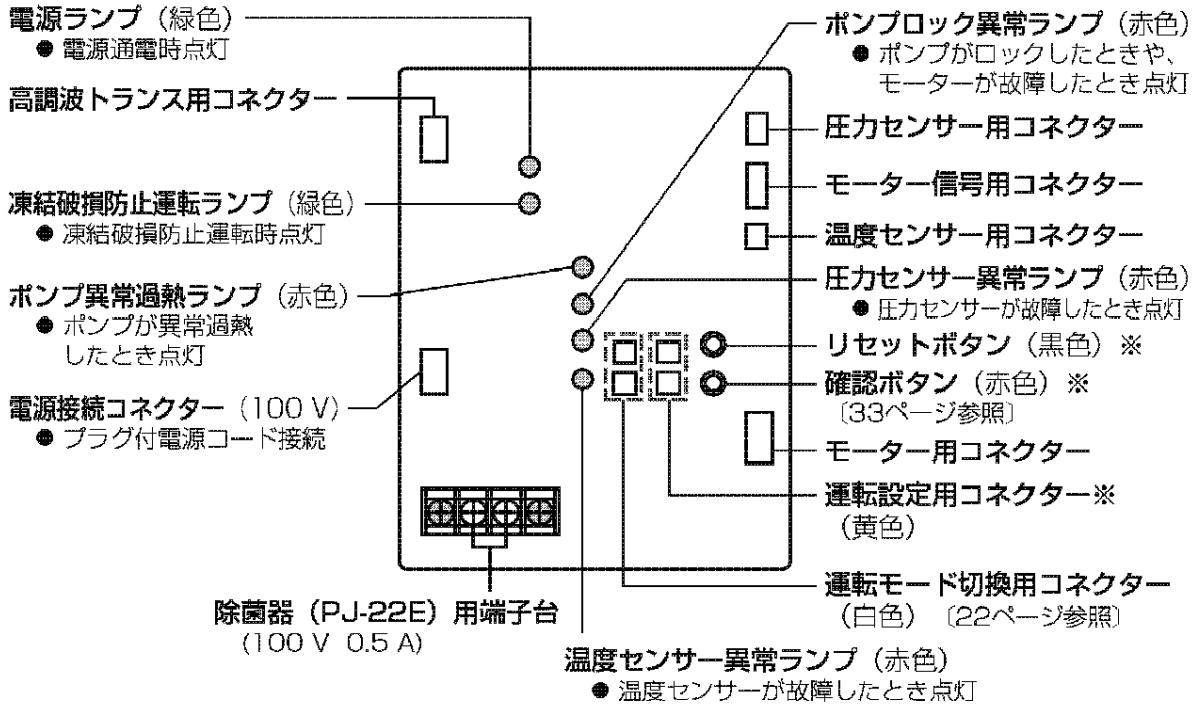


お願い

- ※印のコネクターとボタンは、緊急時やメンテナンス時以外は触らないでください。
- 除菌器を使用する場合、電源は必ず除菌器用端子台に接続してください。
- 除菌器の電源は、除菌器の電源コード先端に絶縁被覆付丸形端子を圧着し、接続してください。
- 異常ランプが点灯した場合、原因を取り除いてから通電状態でリセットボタンを2秒以上押してリセットするか、電源を切り、15秒以上後に電源を入れてください。
  (間隔が短いとリセットされません。)

配線工事

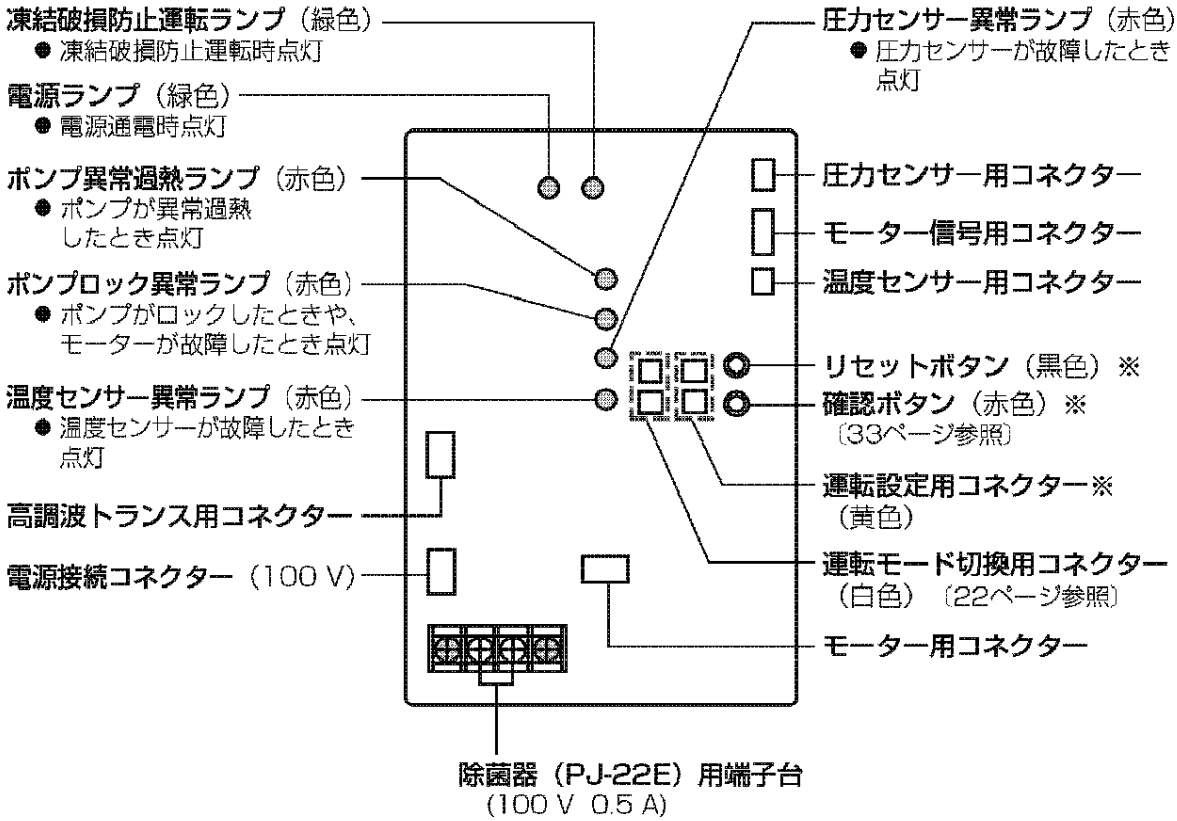
〔PG-301FDC〕



お願い

- ※印のコネクターとボタンは、緊急時やメンテナンス時以外は触らないでください。
- 除菌器を使用する場合、電源は必ず除菌器用端子台に接続してください。
- 除菌器の電源は、除菌器の電源コード先端に絶縁被覆付丸形端子を圧着し、接続してください。
- 異常ランプが点灯した場合、原因を取り除いてから通電状態でリセットボタンを2秒以上押してリセットするか、電源プラグを抜き、15秒以上後に差し込んでください。（抜き差し間隔が短いとリセットされません。）

〔PG-401FDC〕

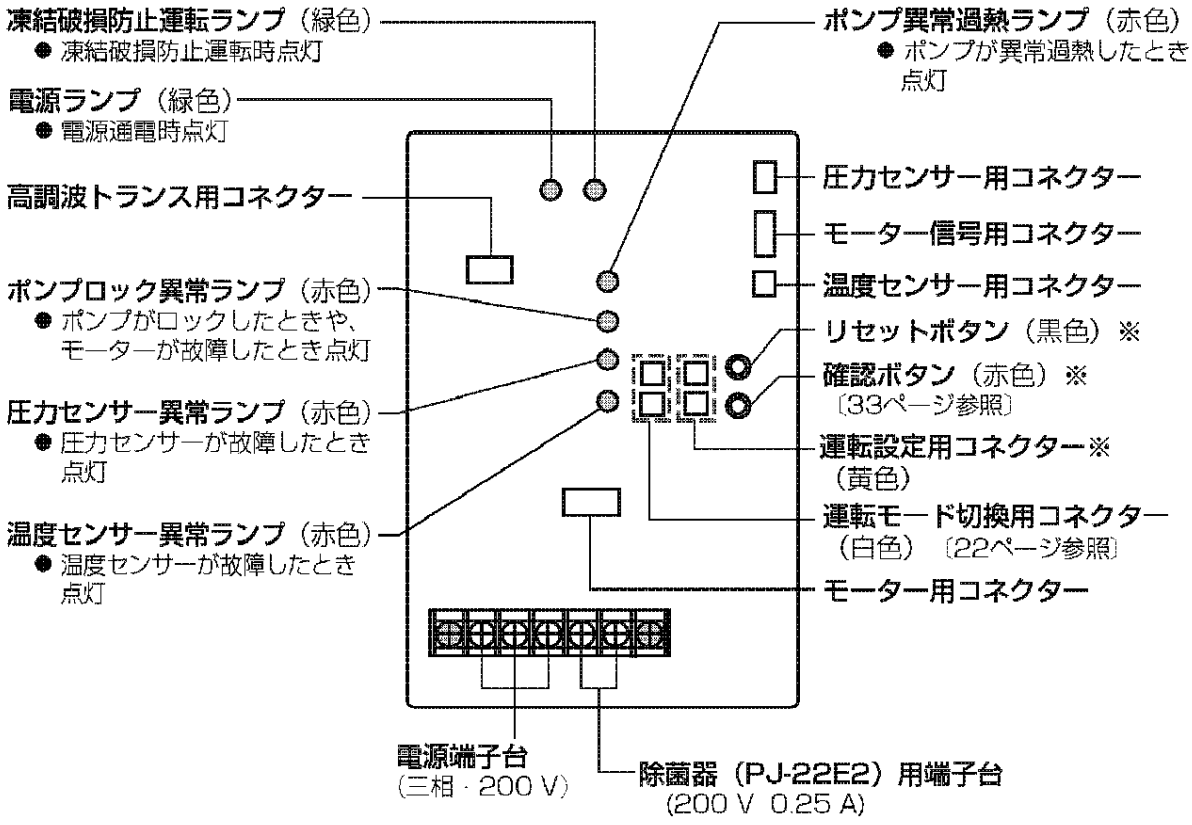


お願い

- ※印のコネクターとボタンは、緊急時やメンテナンス時以外は触らないでください。
- 除菌器を使用する場合、電源は必ず除菌器用端子台に接続してください。
- 除菌器の電源は、除菌器の電源コード先端に絶縁被覆付丸形端子を圧着し、接続してください。
- 異常ランプが点灯した場合、原因を取り除いてから通電状態でリセットボタンを2秒以上押してリセットするか、電源プラグを抜き、15秒以上後に差し込んでください。（抜き差し間隔が短いとリセットされません。）

配線工事

〔PG-401FDCM・PG-751FDC〕



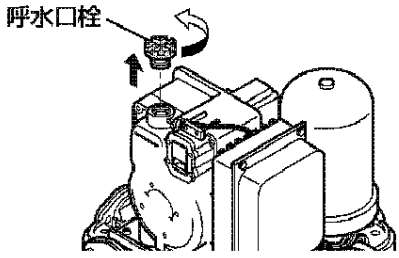
お願い

- ※印のコネクターとボタンは、緊急時やメンテナンス時以外は触らないでください。
- 除菌器を使用する場合、電源は必ず除菌器用端子台に接続してください。
- 除菌器の電源は、除菌器の電源コード先端に絶縁被覆付丸形端子を圧着し、接続してください。
- 異常ランプが点灯した場合、原因を取り除いてから通電状態でリセットボタンを2秒以上押してリセットするか、電源を切り、15秒以上後に電源を入れてください。
（間隔が短いとリセットされません。）

試運転〔浅井戸用〕

① ポンプカバーをはずし、呼水口栓をはずす（1図）

② 呼水口より、やかんなどで呼び水水位まで、水をゆっくりと流し込む（2図）

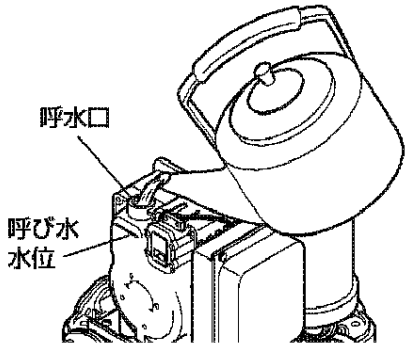


（1図）

⚠注意

■モーターや制御ボックスに水をかけない

禁　止　感電の原因になることがあります。



（2図）

③ 呼水口栓を元どおりに締めつける

※パイプレンチなど、過度なトルクが加わる工具を使わないでください。（破損の原因になります。）

④ 吐出側配管のバルブ、およびじゃ口を1か所開く

⑤ 電源を入れる

⑥ じゃ口より水が出はじめたら、じゃ口を数回開閉し、ポンプが自動運転することを確認する（34ページ「自動運転のしくみ」参照）

⑦ ポンプカバーを取り付ける

お願い

- 必ず呼び水をして運転してください。（故障の原因になることがあります。）
- 電源を入れて5～6分間たっても水が出ない場合は、呼び水が不足している場合がありますので、電源を切り再度呼び水してください。
  （水が出ない状態が10分以上続くと、ポンプを保護するため、回転数が低下します。）
- 水が出はじめたら、下記を確認してください。
  ・砂の混入状況　・配管からの水漏れ　・運転音の異常
  ・空気をかみ込んでいないか（じゃ口から空気が出ていないか）
- 試運転時、ポンプが停止することを確認してください。（止水後約10秒で停止します。）
- じゃ口を閉じてもトイレのロータンクや配管から漏水しているとポンプが停止しないことがありますので、漏水していないか確認してください。

お知らせ

- 本機は頻繁な起動停止を防止する為に、じゃ口を閉じてから約10秒後に停止します。
  （すぐに止まらなくても故障ではありません。）
- ポンプ部の温度が2℃以下になると凍結破損防止の為に、水を使用しなくてもポンプは低速で運転します。
  （凍結破損防止運転中は制御ボックス内の凍結破損防止運転ランプ（緑色）が点灯します。ポンプ部の温度が4℃以上になると消灯してポンプは停止します。）

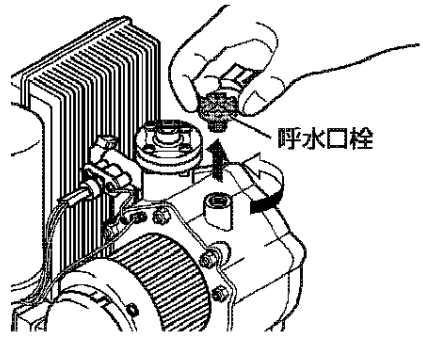
試運転〔深井戸用〕

① ポンプカバーをはずし、呼水口栓をはずす（1図）

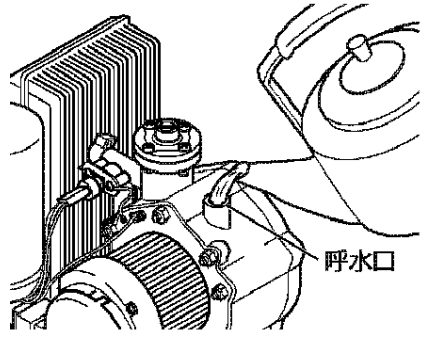
② 呼水口より、やかんなどで満水になるまで、水をゆっくりと流し込む（2図）

※呼水口よりあふれ出る水から気泡が出なくなるまで十分に呼び水します。

※圧力管・吸込管にも必ず呼び水し、配管内を満水にしてください。
（圧力管・吸込管への呼び水は、横引き配管の接続前をおすすめします。）



（1図）



（2図）

⚠注意

■モーターや制御ボックスに水をかけない

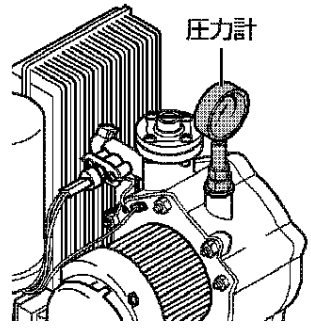
禁　止　感電の原因になることがあります。

③ 圧力計のネジ部にシールテープを巻き、呼水口に取り付ける（3図）

④ 吐出側配管のバルブとすべてのじゃ口を全開にする

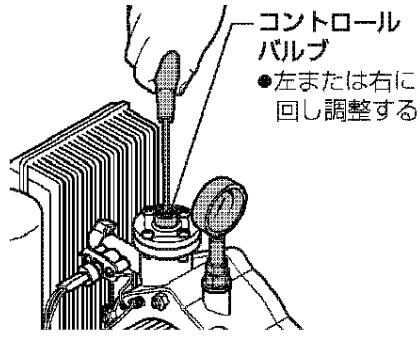
⑤ 電源を入れる

⑥ ポンプが揚水すると、圧力計の針が上昇するので、コントロールバルブを左、または右に回し、圧力計の針が下表の値になるように調整する（4図）



（3図）

ポンプ品番	コントロールバルブ設定圧（kPa）
PG-301FDC	110～130
PG-401FDC PG-401FDCM	150～170
PG-751FDC	240～270



（4図）

※圧力計の針が上昇しない場合は呼び水が不足していますので、電源を切り、コントロールバルブを締めた状態（右方向に止まるまで回す）に戻して再度、呼び水してください。

⑦ 調整後、数分間運転して圧力計の針が変動しないか確認する

⑧ じゃ口を数回開閉し、ポンプが自動運転することを確認する

⑨ 電源を切りじゃ口を開いて水を出し、水が出なくなったら圧力計を取りはずす

※呼水口まで満水していない場合には、水を注ぎたしてください。

⑩ 呼水口栓を元どおりに締め、電源を入れる

※パイプレンチなど、過度なトルクが加わる工具を使わないでください。
（破損の原因になります。）

⑪ ポンプカバーを取り付ける

以上でポンプが正常に運転し、その後はじゃ口の開閉によりポンプが自動運転します。

お願い

- 必ず呼び水をしてください。（故障の原因になることがあります。）
- 2～3分間たっても水が出ない場合は呼び水が不足している場合がありますので、電源を切り再度呼び水してください。
- コントロールバルブを調整するときは、ねじがはずれない程度にゆるめてください。
- コントロールバルブ設定圧の調節は、必ず圧力計をご使用のうえ30ページ⑥の値に調節してください。
（規定外の設定圧で使用されますと、騒音が出たり、性能が低下することがあります。）

〔参考〕コントロールバルブの簡易調整方法

① コントロールバルブを右に回し締める（30ページ4図参照）

② 呼び水をし、呼水口栓を締める

③ 電源を入れ、揚水するまで待つ

④ 揚水を始めたら、じゃ口を1～2か所全開にする

⑤ コントロールバルブを左にゆっくりと回す（水の勢いが強くなってきます。）

⑥ ポンプから「ガガー」という音が出て水の出が少なくなってきたら、ゆるめるのをやめ、「ガガー」と音が出なくなるまでコントロールバルブを右へ回す

⑦ 10～20分運転し、水位変動が落ち着くのを待つ
（「ガガー」と音が出たらコントロールバルブを締め再調整してください。）

⑧ 水の出具合、運転音の変化などの異常がないか確認する

※簡易調整をされた場合、調整後必ず圧力計で設定圧が規定内になっているか確認してください。

凍結防止 （暖かい地方でご使用の場合も必ずお読みください。）

冬期は、暖かい地方でも思いがけない寒波のためにポンプや配管が凍結し、破損する場合がありますので、必ず下記の凍結防止対策を行ってください。

■ 配管の保温

露出部には、必ず保温材や市販の水道凍結防止器を巻いて保温し、横引き配管は地中に埋めてください。
※埋める深さは、その地方の気温や地質によって決めてください。

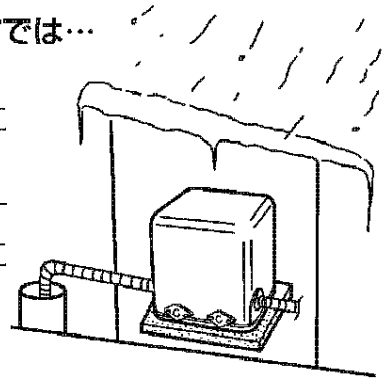
■ ポンプの保温

● **外気温が2 ℃近くになると…**
温度センサーが作動し、**ポンプを自動的に保温する凍結破損防止運転**を行います。

● **外気温が特に低い（無風時で－15 ℃以下の）地方では…**
凍結破損防止運転だけでは効果がありませんので、コンクリートブロックなどで小屋をつくり、内側に保温材を取り付けてください。

※外気温が低くなりますと配管部から熱がにげますので、凍結防止には配管部を含めて、その地方に合った対策が必要です。

※凍結による破損の修理は有料です。



⚠警告

凍結防止のために、ポンプカバーやポンプカバー内のモーター部に毛布などをかぶせない

禁　止

過熱による発火で火災の原因になります。

お願い

- ポンプ小屋は夏期に風通しができるようにしてください。
- ポンプ小屋には修理・点検ができるスペースを設けてください。また、排水ができるようにしておいてください。
- 電源を切ると凍結破損防止運転ができませんので、電源は常時入れておいてください。

確認ボタンについて

確認ボタンの操作で、ポンプの「稼働時間」と「異常履歴」を確認できます。

●「稼動時間」を確認するとき

確認ボタンを押すと、下記の異常ランプ点灯により稼働時間を表示します。
〔このとき、凍結破損防止運転ランプ（緑色）が点滅する〕

稼働時間　1000時間未満：点灯しない
1000時間以上2000時間未満：ポンプ異常過熱ランプが点灯
2000時間以上3000時間未満：ポンプロック異常ランプが点灯
3000時間以上4000時間未満：ポンプ異常過熱ランプとポンプロック異常ランプが点灯

※表示は異常ランプを使い、2進数表示されています。

●「異常履歴」を確認するとき

確認ボタンを2秒以上押すと、過去に異常が発生した履歴のあるランプが点灯します。
〔このとき、凍結破損防止運転ランプ（緑色）がフラッシュ点滅する〕
例：過去にポンプ異常過熱が発生していた場合 → ポンプ異常過熱ランプが点灯

お知らせ

- もう一度確認ボタンを押す、またはボタンを操作してから30秒経過すると、ランプは消灯します。

お願い

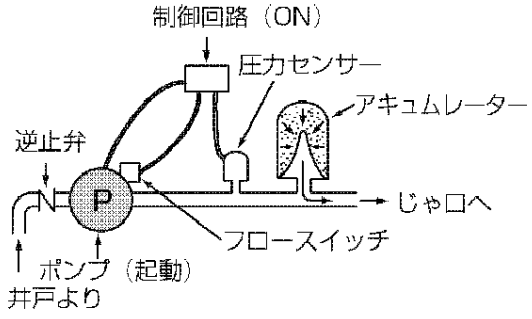
- **メンテナンス時以外は、確認ボタンを操作しないでください。**

自動運転のしくみ〔浅井戸用〕

本機は下記のようなしくみで自動運転します。

1．じゃ口を開いてポンプが起動するまで

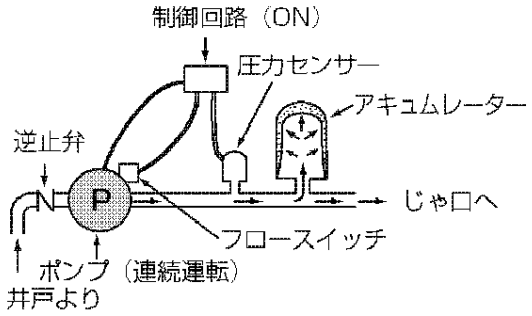
アキュムレーター内の蓄圧水が放出され、ポンプ内部の圧力が起動圧力まで低下すると、圧力センサーで検知し、ポンプを起動します。



2．連続運転

（ポンプ停止流量超過の場合）

ポンプ内部の圧力を圧力センサーで検知し、使用水量の増減に応じてインバーターでモーターの回転数を制御し、給水します。



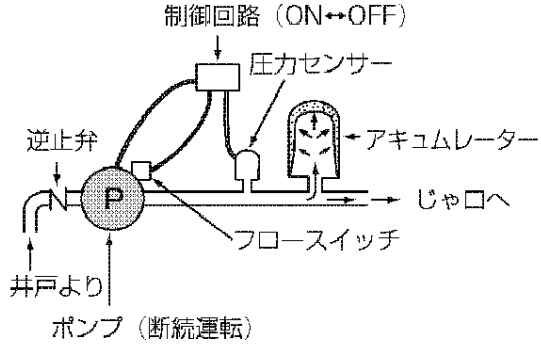
3．断続運転

（ポンプ停止流量以下の場合）

（1）ポンプ内部の圧力が上昇し、給水量がポンプ停止流量以下になると、フロースイッチで検知し、ポンプを停止します。

（2）停止後、吐出側圧力が起動圧力以下まで低下すると、ポンプが再び起動します。

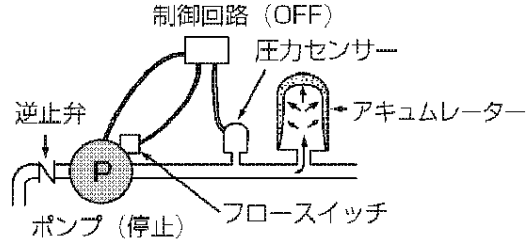
※ポンプの頻繁な起動・停止を防止するため、起動から10秒運転した後、停止圧力を越え、流量３L/min 以下のとき、ポンプを停止します。ただし、10秒運転中にじゃ口をさらに開き、吐出側圧力が起動圧力以下まで低下すると、連続運転します。



4．じゃ口を閉じると…

ポンプ内部の圧力が上昇し、給水量がポンプ停止流量以下になると、フロースイッチで検知し、ポンプを停止します。

※ポンプの頻繁な起動・停止を防止するため、10秒運転した後、ポンプを停止します。

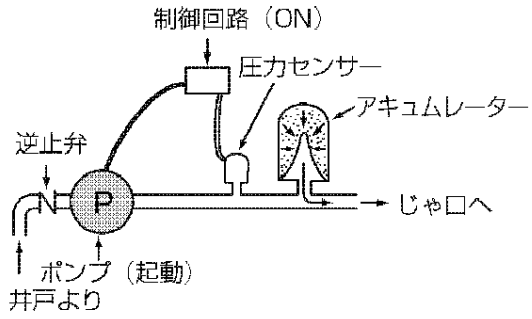


〔深井戸用〕

本機は下記のようなしくみで自動運転します。

1．じゃ口を開いてポンプが起動するまで

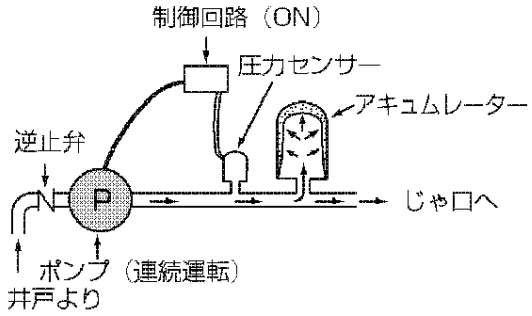
アキュムレーター内の蓄圧水が放出され、ポンプ内部の圧力が起動圧力まで低下すると、圧力センサーで検知し、ポンプを起動します。



2．連続運転

（ポンプ停止流量超過の場合）

ポンプ内部の圧力を圧力センサーで検知し、使用水量の増減に応じてインバーターでモーターの回転数を制御し、給水します。



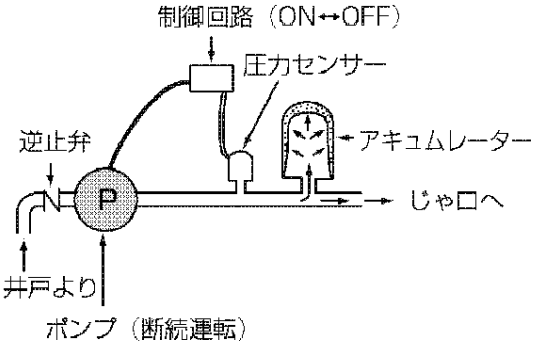
3．断続運転

（ポンプ停止流量以下の場合）

（1）ポンプ内部の圧力が上昇し、給水量がポンプ停止流量以下になると、ポンプを停止します。

（2）停止後、吐出側圧力が起動圧力以下まで低下すると、ポンプが再び起動します。

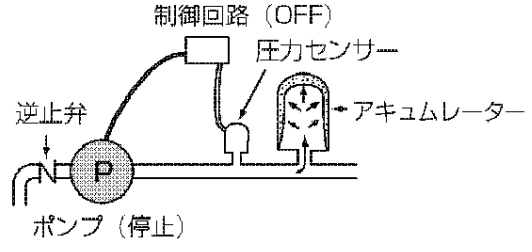
※ポンプの頻繁な起動・停止を防止するため、20秒運転した後、ポンプを停止します。ただし、20秒運転中にじゃ口をさらに開き、吐出側圧力が起動圧力以下まで低下すると、連続運転します。



4．じゃ口を閉じると…

ポンプ内部の圧力が上昇し、給水量がポンプ停止流量以下になると、ポンプを停止します。

※ポンプの頻繁な起動・停止を防止するため、20秒運転した後、ポンプを停止します。



002_後半.qxd 06.3.30 4:19 PM ページ36

消耗部品について

ポンプ性能を維持するために下記部品の定期的な点検・交換が必要となります。
ただし、ポンプの使用状態、水質により交換時期は異なります。

■ ポンプモーター部

消耗部品名	交換時期の目安
Oリング	分解点検ごと
メカニカルシール	3年
玉軸受（モーターベアリング）※	4年

※ローター完成品での交換となります。

■ その他の構成機器

消耗部品名	交換時期の目安
アキュムレーター	4年
圧力センサー	5年
逆止弁	3年
パッキン	分解点検ごと

愛情点検　長年ご使用のポンプの点検を！

こんな症状はありませんか

- モーターが止まらない
- 水漏れしている
- その他の異常や故障がある

以上のような症状のときは使用を中止し、故障や事故の防止のため必ず販売店（工事店）に点検を依頼してください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お買い上げ日	年　月　日	品番	PG-
販売店名	電話（　　）　—		
お客様ご相談窓口	電話（　　）　—		

松下電工株式会社　アクア・デバイス事業部
〒522−8520　滋賀県彦根市岡町33番地

ZGSOG202ADC0Z　F0506T0 Ⓟ